



北関東一だったにぎわいも 空洞化進み新しい施策が必要に

かつては北関東で最初に街路灯がともし、活気にあふれていた前橋の中心市街地。ここ数年は、全国で多くの地方都市がそうであるように、大型店の撤退や個人商店の閉鎖などで空き店舗が増え、人通りも少なくなっていました。

しかし、かつてのにぎわいを取り戻そうとマイバスの運行、特徴ある店舗の登場、工夫を凝らしたイベントなど、新しい動きが起ころっています。これからのまちづくりには、行政と市民の皆さんが一体となって立ち向かわなくてはなりません。ここでは、中心市街地の成り立ち、個性的な店舗や商品、楽しいイベント、

市民の皆さんの声などを紹介。県都前橋の「顔」ともいえる中心市街地の活性化を一緒に考えてみましょう。

これまでの歩み

本市は畑地が多く蚕の餌となる桑の栽培に適した風土であったため、江戸時代から養蚕が盛んでした。十九世紀に入り横浜港から生糸や絹織物が世界へ輸出されるようになると、地理的に恵まれた前橋の養蚕業と生糸生産は隆盛を極め、中心市街地は繭と生糸の生産者や流通にかかわる人たちが大いににぎわいました。明治十四年に県庁を誘致し、明治二十五年には関東で東京、横浜、水



特色を出して皆さんをお待ちしています

みんな まち へ行こう

再

生。人々が中心市街地に求めようになつて久しくなりました。なぜ活性化が必要なのでしょう。中心市街地がにぎわい、楽しく魅力にあふれていたら、わたしたちは自分たちのまちに誇りと愛着をより強くするでしょう。訪れた人もまた来てみたいと思うに違いありません。かつて中心市街地が「まち」と呼ばれたころの活気を取り戻そうと、商店主や多くの人たちが取り組んできました。その取り組みや個性的な店舗、楽しいイベントなど最新の状況はどうなのか探りました。皆さんも中心市街地へ足を運び、新しい発見をしてみませんか。

問い合わせはにぎわい課 2102188へ。

戸に次いで四番目に市制が施行されると、中心市街地の活気はさらに増大。大正時代から昭和初期にかけては、飲食店や映画館、衣料品店などが立ち並び、連日たくさんの人出でにぎわいました。第二次世界大戦の空襲で大部分が焦土と化しましたが、高度経済成長期には商業・文化・娯楽などの機能が複合的に立地。県都の顔として発展を続けました。

しかし、自動車普及すると、広い駐車場を持ち営業時間も長く、一カ所ですさまざまな物が買える郊外の大規模商業施設へ客足が流れ、さらに中心市街地も小売店の後継者不足などで魅力が低下。その影響から大型店が相次いで撤退して集客力が下がり、空洞化が進んでしまいました。

取り組みの成果が

前橋の中心市街地は、県内でもまれにみるほどたくさん的小売店舗が集まっています。また、広瀬川が清らかに流れ、自然が美しく文化の薫りも高い場所です。本市では、ほかにはない魅力を持った中心市街地の再生を重要課題と位置付け、中心市街地活性化基本計画の策定、TMOの認定などを行いました。昨年には中央通りと銀座通りの交差点近くににぎわい課を設置、現場に身を置き、多様な施策を展開しています。

このような中、個性的な店舗や新しい商品の登場、市民団体や商店街によるイベントの開催などで、徐々ににぎわいが復活しつつあります。

中心市街地の歩み
大正、昭和初期 映画館・飲食店・衣料品などが立ち並び
昭和 20年 前橋空襲・終戦 22年 初のエスカレーター登場 立川町通りに街路灯
37年 中央通りアーケード建設 39年 前三百貨店、長崎屋開店 43年 弁天通りアーケード建設 丸井前橋店開店
47年 スズラン、ニチイ開店 50年 西友前橋西武店開店 58年 オリオン通りアーケード建設
60年 長崎屋、前三百貨店撤退 61年 丸井前橋店撤退
平成 4年 前橋テルサ開館 5年 ニチイ撤退 6年 市営パーク千代田開設 前橋文学館開館 市営パーク城東開設 7年 中心協組合設立 9年 市営パーク五番街開設 12年 コムネットO発足 13年 にこにこパークینگ開設 14年 スズラン新館オープン 16年 マイバス運行開始 リヴィン前橋撤退 にぎわい課設置